

練馬子ども議会報告書



令和4年度（2022年度）

練馬区

ごあいさつ

練馬区教育委員会

教育長 堀 和夫



練馬区では、中学生が区政や区議会、選挙の仕組み、練馬区についての理解を深めることを目的として、毎年夏に「練馬子ども議会」を実施しています。

令和2年度および3年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、中止となり、3年ぶりの実施となりました。

今年度は、区立中学校33校、都立中学校1校および私立中学校1校から選出された各1名の子ども議員の皆さんから、「練馬区のみどり」、「防災」、「食育の推進」、「中学生の放課後」について、区へ政策提言の発表がありました。

この提言は、子ども議員の皆さんが約1か月にわたって地域調査を行い、グループ相互に意見交換を行ってまとめ上げた成果です。また、生涯学習センターでの政策提言発表においては、多くの傍聴者の前でスライドを用いた発表や各グループ間での質疑応答を行うなど、貴重な体験をしていただけたものと思います。

参加した子ども議員の皆さんには、この経験を生かし、普段から物事に問題意識を持ち、具体的に考える習慣を身に付け、自分達で解決策を見つける力を磨いてもらいたいと思います。

こうした体験を通して、中学生の皆さんがこれからの練馬区について共に築いていくことを願うとともに、皆さんの更なる成長と今後の活躍を大いに期待しています。

目 次

◆ 令和4年度練馬子ども議会の開催について	2
◆ 令和4年度練馬子ども議会子ども議員名簿	4
◆ 練馬子ども議会が開催されるまで	5
◆ グループ紹介	11
◆ Let's Join Nerima green volunteers	12
◆ Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～	14
◆ 知りたい！食べたい！つながる食育	16
◆ 放課後 Happy time	18
◆ 練馬子ども議会開会宣言	21
◆ 意見交換会	25
◆ 政策提言発表	31
◆ 「練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高めるには」	33
Let's Join Nerima green volunteers グループ	
◆ 「中学生の防災への関心を高めるためには」	36
Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～ グループ	
◆ 「持続可能な社会に向けた食育の推進について」	40
知りたい！食べたい！つながる食育 グループ	
◆ 「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには」	44
放課後 Happy time グループ	
◆ 会議録署名	54
◆ 資料	
◆ 令和4年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票	56
◆ 子ども議員へのアンケート集計結果	60
◆ 練馬子ども議会プロジェクトチーム（PT）について	66

令和4年度練馬子ども議会の開催について

1 目的

(1) 区政に関する意見の聴取

中学生が日ごろ疑問に思っていること、子ども議員として希望や意見などを表明する場を提供するとともに、区政に反映させる機会とする。

(2) 区政や区議会、選挙の仕組み、練馬区についての学習

子ども議会を経験することにより、区政や区議会の仕組みについて学習するとともに、選挙の仕組みや練馬区について理解を深め、区政についての関心を高める機会とする。

2 開催期間

(1) 学習会 令和4年7月2日(土)～令和4年8月1日(月)【全4回】

(2) 政策提言発表 令和4年8月2日(火)

3 開催場所

区役所多目的会議室、議場、全員協議会室、生涯学習センターホール

4 子ども議員

区立中学校および国・都・私立中学校生徒 35名

5 実施内容

(1) 子ども議員の推薦

- ① 国・都・私・区立中学校に子ども議員の推薦を依頼する。
- ② 子ども議員に、2つの分野（教育・子ども分野、区政全般に関する分野）から希望する分野を選んでもらい、それをもとに4グループに分ける。
- ③ 所属するグループが決定した子ども議員は、テーマに関する事前学習を行う。

(2) 学習会

- ① 第1回学習会 7月2日(土) 10:00～16:00 [区役所多目的会議室]
区政・区議会制度、選挙制度の学習、子ども議会概要説明、グループづくり、研究課題の設定
- ② 第2回学習会 7月22日(金) 10:00～16:00
[区役所多目的会議室、地域調査場所]
地域調査、政策提言全容図の作成
- ③ 第3回学習会 7月25日(月) 10:00～16:00 [区役所多目的会議室]
政策提言発表原稿の作成
- ④ 第4回学習会 8月1日(月) 9:00～16:00
[議場、全員協議会室、区役所多目的会議室]
練馬子ども議会開会宣言、政策提言(案)発表、意見交換会、政策提言(案)の修正等

(3) 政策提言発表 8月2日(火) 10:00~16:30 [生涯学習センターホール]

各グループの政策提言発表、地域調査報告、発表に対する他グループとの質疑応答

- ・リハーサル 10:00~12:00
- ・政策提言発表等 13:30~15:30
- ・ふりかえり 15:30~16:30

(4) 政策提言への取組調査

政策提言の内容を各所管に示して取組状況の調査を行う。結果は練馬子ども議会報告書および区ホームページに掲載する。

(5) 報告書

練馬子ども議会報告書を作成し、区内各小中学校等に配付する。

6 練馬子ども議会の各課役割について

(1) プロジェクトチーム

各担当課より選出された職員でプロジェクトチームを設置する。

教育・子ども分野から2名程度、区政全般に関する分野から2名程度(学習会の進行管理、助言、地域調査場所の選定および調査当日の随行等)

(3) 事務局

教育委員会事務局こども家庭部青少年課に事務局を置く。

事務局は総合調整、PT説明会の進行管理、意見交換会・政策提言発表の運営、報告書作成・配付等を行う。

令和4年度 練馬子ども議会子ども議員名簿

グループ名	テーマ	氏名	ふりがな	性別	中学校名	学年
Let's Join Nerima green volunteers	練馬区のみどりの ボランティアへの関心と 参加率を高めるには	三谷 温輝	みたに はるき	男	中村中学校	2
		高田 茜	たかだ あかね	女	開進第四中学校	2
		澤 一瑳	さわ いっさ	男	貫井中学校	2
		椿原 侑	つばきはら ゆう	男	豊溪中学校	2
		小松 風翔	こまつ ふうと	男	石神井中学校	2
		大野 杏珠	おおの あんじゅ	女	石神井西中学校	2
		林田 妃葵	はやしだ ひまり	女	上石神井中学校	2
		知花 咲来	ちばな さくら	女	大泉中学校	2
		石川 純麗	いしかわ すみれ	女	大泉高等学校附属中学校	3
Let's BOUSAI ~関心を 高めてSmileを増やそう	中学生の防災への関心を 高めるためには	本間 詩乃	ほんま しの	女	北町中学校	2
		長島 舞音	ながしま まお	女	光が丘第二中学校	3
		諸岡 佳音	もろおか かのん	女	光が丘第三中学校	2
		塩塚 柚季	しおつか ゆずき	女	谷原中学校	3
		渡邊 琴心	わたなべ ことみ	女	石神井南中学校	2
		天田 侑希	あまだ ゆうき	男	大泉第二中学校	2
		戸塚 詩乃	とつか しの	女	大泉北中学校	2
		長澤 凜太	ながさわ りんた	男	関中学校	2
		稲垣 颯天	いながき そうま	男	八坂中学校	2
知りたい！食べたい！ つながる食育	持続可能な社会に向けた 食育の推進について	金野 清児	こんの せいじ	男	豊玉中学校	2
		渡邊 夏生	わたなべ なつき	女	練馬中学校	2
		福山 紗良	ふくやま さら	女	開進第三中学校	2
		永柴 颯太	ながしば そうた	男	光が丘第一中学校	2
		北條 秀門	ほうじょう しゅうもん	男	石神井東中学校	2
		大羽 希空	おおば のあ	女	大泉西中学校	3
		栢井 若葉	ますい わかば	女	大泉学園中学校	2
		八木 美有	やぎ みゆ	女	東京女子学院中学校	2
放課後Happy time	中学生のニーズに応え 楽しめる放課後にする ためには	稲葉 咲空	いなば さら	女	旭丘中学校	3
		江原 安弥霞	えはら あやか	女	豊玉第二中学校	2
		瀬ノ口 愛梨	せのくち あいり	女	開進第一中学校	2
		吉田 剛貴	よしだ ごうき	男	開進第二中学校	2
		木澤 翼	きざわ つばさ	男	練馬東中学校	2
		小泉 ここな	こいずみ ここな	女	田柄中学校	2
		割寄 美羽	わりぎき みう	女	三原台中学校	2
		利光 葉南	としみつ はな	女	南が丘中学校	3
		鈴木 陽翔	すずき はると	男	小中一貫教育校大泉桜学園	2

練馬子ども議会が開催されるまで

子ども議員の募集

- ◇ 区立中学校（全33校）、区内の国・都・私立中学校（6校）に子ども議員の推薦を依頼しました。

子ども議員の決定

- ◇ 区立中学校から33名、都立中学校1名、私立中学校1名の推薦があり、合計35名の子ども議員が決定しました。
- ◇ 子ども議員は、調査、提案したいテーマごとに、1グループ8～9名で構成する4つのグループに分けられました。
- ◇ 所属するグループの決まった子ども議員は、調査、提案したい内容について事前学習を行い、学習シートを提出しました。



第1回学習会

7月2日（土）

10:00～16:00＜区役所多目的会議室＞
33名の子ども議員が出席しました。

（主な実施内容）

【全体会】

選挙制度について

選挙権や選挙の種類、若年層の投票率などを学習し、投票箱の組み立てを体験しました。

練馬区について

練馬区の歴史や特徴、区政運営、今後の方向性などについて学習しました。

練馬子ども議会について

練馬子ども議会のあらましについて説明を受けました。

政策提言について

政策形成の方法、提言書の作成について説明を受けました。

地域調査について

地域調査のための調査場所、対象など具体的な方法について説明を受けました。





【グループ別学習会】

- ① 自己紹介を行いました。
- ② グループ長と書記を決めました。
- ③ 事前学習シートを参考に話し合い、政策提言発表のテーマを決めました。
- ④ 第2回学習会で行う地域調査の調査場所および調査内容を決めました。

第2回学習会

7月22日(金)

10:00～16:00

31名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【地域調査】

地域の人たちの話を聴くなど、地域の事象を実際に目で見て課題を捉える。

① Let's Join Nerima green volunteers グループ

練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高めるための取組について学習するため、教育指導課職員と環境まちづくり公社職員から取組状況等を聞き、インタビューしてきました。



② Let's BOUSAI ～関心を高めて Smileを増やそう～ グループ



中学生の防災への関心を高めるための学習をするため、防災学習センターに行き職員から取組状況等を聞き、インタビューしてきました。

③ 知りたい!食べたい!つながる食育 グループ

持続可能な社会に向けた食育の推進について学習するため、練馬区内の農家の方へ取組状況等を聞き、インタビューしてきました。



④ 放課後 Happy time グループ



中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするための学習をするため中村児童館に行き、職員から取組状況等を聞き、インタビューしてきました。

【グループ別学習会】 地域調査のまとめ

地域調査で、実際に見て、聞いて、感じたこと、わかったことをみんなで話し合い、確認しました。



第3回学習会

7月25日(月)

10:00～16:00<区役所多目的会議室>

35名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】

議長・会議録署名議員の選出

立候補者を募り、議長・会議録署名議員を決めました。

【グループ別学習会】



第2回学習会で話し合った内容をまとめ、政策提言発表で提案する原稿を作成しました。また、練馬子ども議会開会宣言・意見交換会のリハーサルを行いました。

第4回学習会

8月1日(月)

9:00～16:00

<本会議場・全員協議会室・区役所会議室ほか>

35名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】 9:00～10:00

練馬子ども議会開会宣言・意見交換会の流れを確認しました。

【練馬子ども議会開会】 10:15～10:20



議場で開会宣言し、会議録署名議員の指名、会期・議題を決定しました。

【意見交換会】 10:30～12:00

各グループが政策提言（案）を発表し、意見を交換しました。

※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など18名の方が傍聴しました。



【グループ別学習会】 13:00～17:00



意見交換会後に、質疑応答のまとめや改めて考えたことなどをグループ内で話し合いました。

政策提言発表

8月2日（火）

13:30～15:30＜生涯学習センター＞

34名の子ども議員が出席しました。

生涯学習センターにおいて、区に対してグループで政策提言発表等を行いました。各グループの発表について教育長から講評を受けました。



※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など55名の方が傍聴しました。

グループ紹介



Let's Join Nerima green volunteers

グループ

「練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高めるには」



石川 純麗（大泉高等学校附属中学校） 大野 杏珠（石神井西中学校）
小松 風翔（石神井中学校） 澤 一瑳（貫井中学校） 高田 茜（開進第四中学校）
知花 咲来（大泉中学校） 椿原 侑（豊溪中学校） 林田 妃葵（上石神井中学校）
三谷 温輝（中村中学校）
PT 星野 健一（環境部みどり推進課管理係長）
PT 野末 侑甫（環境部みどり推進課管理係）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高める

調査目的 若い世代の人のボランティア活動への認知度、関心を高める。

調査場所 練馬区役所
練馬みどりのまちづくりセンター

調査内容・方法
インタビューを行い、私たちの提案は実現可能なのか、若者の認知度を上げる取り組みを行っているか聞く。

区の現状（すでに実施しているか）

- ・若者のボランティア活動の割合が少ない。
- ・PRが行われているものの認知度が低い。
- ・活動日によって参加が難しい人がいる。
- ・ボランティア活動が若者にとって身近じゃない。

課題・問題点

- ・生徒会活動での発信
- ・若い世代の人たちをどのように参加させるか。
- ・体力が落ちた人、SNSの苦手な人への対応。
- ・みどりへの意識、関心が低い。

解決策の検討項目

1. みどりを守り、育むことへの意識。
2. ボランティアに参加するためのきっかけ作り
3. チラシを若者向けのものにする。

解決するための方法・手段

1. みどりについてのアンケートをして意識作り
2. ボランティアの参加に対して賞状を送る。
3. 今流行りのデザイナー（漫画家等）にデザインを依頼する。
4. みどりのまちづくりセンターと協力して、各学校に配る。（各校の学級委員等に協力依頼）
5. 落ち葉拾いのボランティアで集めた落ち葉をしおりにして、各学校に配り、ボランティア活動に興味を持ってもらい、身近にしてみらう。

自分たちができること

- ・活動の目的説明
- ・友達や身近な人を誘う
- ・SNSを使って、見て・知って・拡散
- ・学代や生徒会に提案する。

Let's BOUSAI ～関心を高めて Smile を 増やそう～ グループ

「中学生の防災への関心を高めるためには」



天田 侑希 (大泉第二中学校) 稲垣 颯天 (八坂中学校) 塩塚 柚季 (谷原中学校)
戸塚 詩乃 (大泉北中学校) 長澤 凜太 (関中学校) 長島 舞音 (光が丘第二中学校)
本間 詩乃 (北町中学校) 諸岡 佳音 (光が丘第三中学校)
渡邊 琴心 (石神井南中学校)
P T 妻木 里恵 (危機管理室危機管理課庶務係長)



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：中学生の防災への関心を高めるためには

調査目的

中学校の防災の関心を高める。

調査場所

防災学習センター

調査内容・方法

インタビューや防災体験

区の現状（すでに実施しているか）

- ・防災イベントに人が集まらない。
- ・避難所の環境整備が不十分

課題・問題点

- ・防災への関心が低い。
- ・防災が大人中心で行われている。

解決策の検討項目

- ・学校の力を借りて関心を高める。
- ・生徒が中心となって防災に取り組む。

解決するための方法・手段

- ・生徒中心となって行う避難訓練の実施。
- ・生徒会活動と関連づける。
- ・防災を特に強化する週間、月間を作る。
- ・委員が学校代表としてイベントに参加する。
- ・防災についての調べ学習を実施する。
- ・家庭の防災状況をチェックするシートする。

自分たちができること

- ・自らイベントに参加、運営する。
- ・自分の家の備蓄や東京都の被害想定等を参考に自分の家の被害予測を知る。

知りたい！食べたい！つながる食育 グループ

「持続可能な社会に向けた食育の推進について」



大羽 希空（大泉西中学校） 金野 清児（豊玉中学校）
永柴 颯太（光が丘第一中学校） 福山 紗良（開進第三中学校）
北條 秀門（石神井東中学校） 柘井 若葉（大泉学園中学校）
八木 美有（東京女子学院中学校） 渡邊 夏生（練馬中学校）
P T 的場 大将（教育振興部保健給食課学校給食係）
P T 海田 夏希（教育振興部保健給食課学校給食係）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

知りたい！食べたい！つながる食育 グループ

テーマ：持続可能な社会に向けた食育の推進について

調査目的 子どもへの食育と農業の関りに

ついて、農家さんの考えを調べる。

調査場所

農園

調査内容・方法

農家さんへのインタビュー

区の現状（すでに実施しているか）

- ・残飯のリサイクルが少なく、捨てられてしまう食品が多い。
- ・農家、農地が昔に比べて減っている。
- ・食に関する教育、学ぶ機会が少ない。
- ・給食での工夫が昔より多い。
- ・朝ごはんコンクールの実施。
- ・給食での黙食。 ・給食を減らしている。

課題・問題点

- ・給食での工夫が多いことを子どもたちは知らない。
- ・農家が減ってきている。
- ・給食がおいしいのに黙食でおいしく感じられない。
- ・食を学ぶ機会が少ない。（子どもたちの食についての知識が少ない。）

解決策の検討項目

- ・給食を身近に感じてもらい、興味を持てるようにする。
- ・地域と農家の連携強化。
- ・給食を楽しむ。
- ・給食分野の食育を学校で行う。
- ・食品ロスを減らす。

解決するための方法・手段

- ・子どもの手を加え、自ら主体的に学べるようにする。（例：給食の歴史、南アフリカなどの食の現状、農家についての調べ学習など）
- ・農業体験→自分たちで育てる。農家さんなどから話を聞く。
- ・栄養士さんなどによる給食準備中の声かけ。

自分たちができること

- ・自主的に調べる。→調べたものを周りに広める。
- ・農業体験に参加する。
- ・ポスター等の制作する。

放課後 Happy time グループ

「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには」



- 稲葉 咲空 (旭丘中学校) 江原 安弥霞 (豊玉第二中学校)
木澤 翼 (練馬東中学校) 小泉 ここな (田柄中学校)
鈴木 陽翔 (小中一貫教育校大泉桜学園) 瀬ノ口 愛梨 (開進第一中学校)
利光 葉南 (南が丘中学校) 吉田 剛貴 (開進第二中学校)
割寄 美羽 (三原台中学校)
P T 日原 理恵 (こども家庭部子育て支援課放課後対策第二係主査)
P T 渡邊 千恵子 (こども家庭部子育て支援課放課後対策第一係)



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

放課後 Happy time グループ

テーマ：中学生のニーズに応え、楽しめる児童館にするためには

調査目的 児童館の情報発信の実態を調べる。

児童館がどうやってニーズをキャッチしているかを調べる。

調査場所

中村児童館

調査内容・方法

インタビュー、情報発信の実態とニーズの把握を調査する。

区の現状（すでに実施しているか）

- ・子どもとの会話の中でニーズを把握している。
- ・小学校へのお便り配布は、一人1枚制にだが、中学校では、ポスター掲示として配られている。
- ・中高生がスタッフとしてサポートしている。

課題・問題点

- ・意見ボックスを置いていない。
- ・普段、児童館に来ていない人の意見を取り入れていない。
- ・中高生が児童館で何ができるか知られていない。

解決策の検討項目

- ・より多くのニーズを把握する。
- ・中学生への情報の伝達方法。
- ・中学生対象のイベントを増やす。

解決するための方法・手段

- ・意見ボックスを作る。
- ・クラスルームに載せる。（手紙）
- ・中学生だけのイベントを作る。
- ・具体的な募集をする。
- ・中学生でのイベント企画会議をする。

自分たちができること

- ・自ら児童館をPRする。
- ・できるだけ児童館に行く。

練馬子ども議会

開会宣言



令和4年度 練馬子ども議会開会宣言座席表(議場)

青少年 課長	議長(渡邊)
-----------	--------

演壇

放課後Happy time グループ 知りたい！食べたい！つながる食育 Let's BOUSAI～関心を高めてsmileを 増やそう～ グループ Let's join Nerima green volunteers グループ

鈴木	小泉	瀬ノ口
利光	木澤	江原
割寄	吉田	稲葉

大羽	金野	渡邊	本間
柘井	福山	天田	長島
八木	永柴	戸塚	諸岡
北條	稲垣	長澤	塩塚

石川	大野	澤
知花	小松	高田
林田	椿原	三谷

練馬子ども議会・開会宣言

令和4年8月1日（月） 10:15～10:20

青少年課長

ただいまの出席議員は、35名でございます。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、
練馬中学校2年、渡邊夏生です。よろしくお願いします。
ただいまから、練馬子ども議会を開会します。
直ちに、本日の会議を開きます。



渡邊 夏生 議長

会議録署名議員の指名

議長

まず、会議録署名議員を議長より指名します。
小松風翔議員、本間詩乃議員、柘井若葉議員、瀬ノ口愛梨議員、以上4名の議員にお願い
します。
次に、練馬子ども議会の会期についてを議題とします。
子ども議会の会期は、本日および8月2日の2日間としたいと思いますが、これにご異議
ありませんか。

子ども議員

（異議なし）

議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども議会の会期は、本日および8月2日の2日間とす
ることに決定しました。
次に、政策提言について、第1提案「練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を
高めるには」、第2提案「中学生の防災への関心を高めるためには」、第3提案「持続可能
な社会に向けた食育の推進について」、第4提案「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後
にするためには」が提出されています。
政策提言につきましては、この際、直ちに意見交換会を開催し付託したいと思いますが、
これにご異議はありませんか。

子ども議員

（異議なし）

議長

ご異議なしと認めます。よって、政策提言につきましては、これから全員協議会室で開催する意見交換会に付託することを決定しました。

以上で、本日の日程は終了しました。

これをもって、散会します。

意見交換会



練馬子ども議会・意見交換会

令和4年8月1日(月) 10:30~12:00

「練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高めるには」

Let's Join Nerima green volunteers グループ

質問：チェックシートを実施するとありましたが、その具体的な内容はどのようなものなのでしょうか。

回答：チェックシートの具体的な内容ですが、みどりを守り育むための取組について学習することを予定しています。

質問：SNSで拡散するとありましたが、これはSNSで調べて、SNSで拡散するということでしょうか。

回答：ボランティアの情報は、もともとSNSに出ているものもあるので、それを広める活動もしていきたいと思っています。



質問：みどりについてのアンケートを行い意識づくりとありますが、どのような内容のアンケートで誰が作るのでしょうか。

回答：アンケートではなく、話し合いの中で、これはチェックシートという名前になったのですが、みどりのまちづくりセンターの方々と協力して作っていきたいと思っています。

質問：活動日の変更とありましたがそれはどれほどかかるのでしょうか。

回答：活動日を変更するのにどれぐらいの時間がかかるかわかりませんが、みどりのまちづくりセンターの方々と連携して、ボランティア団体の方と話をしていくつもりです。

質問：若者に特化したチラシとは具体的にどのようなイメージをお持ちでしょうか。

回答：今人気の漫画家の方にイラストをお願いするなど、デザインをもう少し今の若者に刺さるような色やレイアウトなどを活用してチラシを作っていこうと考えております。

質問：ボランティアの参加者に対して賞状を送るとありますが、賞状というのは生徒会内のみで作るのでしょうか。それとも学級委員や先生と協力して作るのでしょうか。

回答：練馬区に協力をしていただけて配布できたらと考えています。学校では、朝会などで生徒会の方から渡していただけたら良いのではと思っています。

質問：ボランティアの日程の調整、具体的にどのような日程に調整することをお考えでしょうか。

回答：現在の日程が平日の学校や仕事がある日が多く、若者の参加率が少ないということなので、休日の若者が参加できる時間や放課後などの参加しやすい時間に移動できればと思っています。

「中学生の防災への関心を高めるためには」

Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～ グループ

質問：先ほど解決策で防災に特に強化する週間、月間を作るとありましたが、具体的にどのような活動をするか教えていただきたい。

回答：今、ふれあい月間というものが練馬区で実施されているように、いじめについてのアンケートを各学校で取らせてもらったりしていると思います。それに似たようなもので防災に関するアンケートなどを行うことで防災に関することをそれぞれが考えるきっかけを設けるなど、そういう意味で防災月間を作ろうとしています。

質問：生徒中心の避難訓練をするという取り組みを予定していますとありましたが、生徒会や学級委員が中心となって行うのでしょうか。

回答：生徒が主催と言いましたが、運営するのは生徒会が運営するという方針で話し合ってきました。

質問：生徒を中心とした避難訓練とありましたが、その避難訓練の時間はどのようにして取るのですか。

回答：生徒中心で行う避難訓練の日時などにつきましては、現在、おそらく、防災訓練が各学校によって違うとは思いますが、定期的に行われていると思います。そのうちの年に1回や2回でも生徒中心の防災訓練に切り替えて生徒中心で、中学生が自ら意思を持って行動していくということに変えていくという計画です。

質問：自らイベントの運営とありましたが、例えばどのようなイベントの運営を行う予定ですか。

回答：自らイベントの運営に関しては、地域でやっているイベントなどに自分が運営できるものについて参加したり、生徒会活動に関連付けられていた生徒のみの避難訓練の運営や実施のほかにも生徒会で新しいイベントなどを考え、それに生徒が参加するなどを考えています。



「持続可能な社会に向けた食育の推進について」

知りたい！食べたい！つながる食育 グループ

質問：今の発表で黙食だと給食の時間が楽しく感じられない、残飯が増える理由のひとつと考えているということで、よろしいでしょうか。

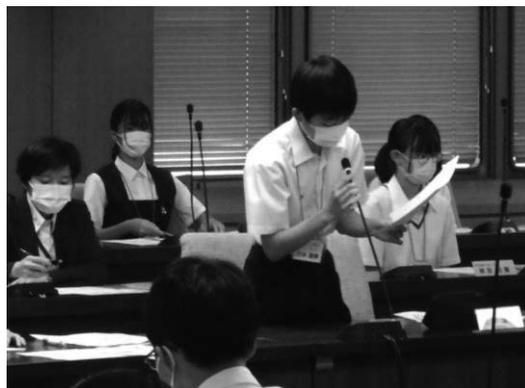
回答：はい、そのとおりです。黙食だと、黙食でないときの友達と話すときの喜びというか、楽しみがなくなってしまうので、その分給食をおいしく感じなくなって残してしまうのではないかと考えています。

質問：黙食だと給食をおいしく感じられないと政策提言全容図に書いてありましたが、しゃべってしまったらしゃべることに集中しすぎて給食を食べることに集中できないのではないのでしょうか。

回答：食事の時の会話は会話がメインではなく、食事に関するコミュニケーションの一環として食事中の会話ということです。

質問：子どもの手を加え自ら主体的に学べるようにするとありましたが、それは授業や課題等に
するのみなのでしょうか。他にもありますか。

回答：子どもたちの手を加えていうのは、課題と、あと一斉給食のコンクールを通じて、自分たちの力で給食を作っていくという意味で表現しています。



質問：農業体験とは、今あるものを追加するのですか。もしくは新しいものを追加するのですか。

回答：今あるものも含め、現在、地域農家との連携が薄いという問題があるので、各学校で地域農家との連携を強化したうえで、それぞれのイベントに参加してもらうということです。

質問：ポスターというのは具体的にどのような内容で、何を何に関して発信していくのかを教えていただければと思います。

回答：いっどこで農業体験ができるか、練馬の野菜のPRや小学校・中学校・高等学校の生徒に向けて食育についてのPRポスターを漫画家さんなどに依頼したり、食育の関心を深められるようなポスターにしたいと考えています。

質問：食品ロスを減らすとは、具体的にどのようなことをしますか。

回答：食品ロスを減らす取り組みについては、実際に栄養士さんの苦労や農家さんの野菜を作る工程での苦労を聞くことで、食品ロスを減らすこともできるのではないかと考えております。

質問：アンケート調査の中で「食育に関心がある」人が6割とありましたが、食育グループは、この6割という数字を多いとみていますか、それとも少ないとみていますか。あと、手書きのポスターとは、どのような内容でしょうか。

回答：食育の関心度については、6割は非常に高い水準だと思いますが、逆にいうと4割の人は関心がないということで、4割の方に目を向けてお話をさせていただきました。

質問：別のアンケートについてですが、「練馬の大地」を知っている方が15%で、「練馬の野菜生産ランキングの1位を知っている」方が約5割、この二つの数について、多いとみえますか、それとも少ないと感じますか。

回答：「練馬の大地」に関しては15%の人しか知らないという非常に低い水準で、しかもこれは給食とも深い関わりがあるので、もっと多くの人知らなきゃならないと思っています。生産ランキングについては、キャベツが1位だと知っている人は、家庭科等で学習しているので、50%の人は知っていたのですが、キャベツではなく大根

が1位だと思っている人が多いので、それについても知ってもらう機会を作るべきだと思っています。

質問：「食育に関心がある」は6割が多かったのですが、その一方、逆に知識のアンケートになってくると、関心はあるが自主的に調べるなどの行動に踏み出せない、その理由というのは何だと思えますか。

回答：食育の関心度が低い原因は、そもそも食育が身近でないと感じている人が多いからではないかと思えます。自分の知っている農家さんは誰ですかと聞かれても、実際にパッと名前を言える人は少ないのではないかと思えます。関心があるのに自主的に調べるなどの行動に踏み出せない理由としては、自分から行動する前に、学校などの学習の場所で食育について学ぶ機会が作られていないというのが問題ではないかと考えました。

質問：学校などの教育的機関で学ぶ機会がある、その一方で自主的に食育のことについて調べようとするのは、調べる必要はないという考えでよろしいでしょうか。

回答：まず学校での食育の機会も授業数としてないというところが多く、その原因として、栄養士としてついている人はいるが、その栄養士という職にも種類があり、子どもたちに教えることができる栄養士の種類、その栄養士さんの免許というか種類の方が、その人がいる学校、中学校ではほぼいないこともあり、そもそも授業数が少ないという学校での問題点と合わせて、中学生の関心が少なくなっているのではないかと考えました。

質問：今、関心が低いとありましたが、最初の回答で関心が非常に高いと聞いていたのですが、どちらでしょうか。

回答：関心は高いと思えますが、40%の方に関心がないということで約半数近くいますので、どちらとも言えるのではないのでしょうか。

「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには」
放課後Happy time グループ

質問：課題を解決するための方法・手段として中学生だけのイベントを作るとありましたが、中学生だけのイベントとは具体的にどのようなものですか。

回答：中学生からリクエストされたイベントを、職員さんと話し合っ決めていきたいと思っています。

質問：中学生だけのイベントとは、どこで誰が行うのでしょうか。

回答：中学生だけのイベントの作り方については、各児童館の職員さんと、中学生から募ったアンケートを基にして、どのようなイベントを実施したいかなどを考え、職員さんと中学生の皆さんで考える予定です。

質問：中学生のスタッフが、児童館の楽しさを周囲に広めると言っていましたが、それは配布されているタブレットのクラスルームに載せるなどして広めるということでしょうか。それとも他の方法を使うのでしょうか。

回答：まず、ポスターを各クラス1枚掲示します。そして中学校でも一人1枚紙でお便

りの配付し、クラスルームも活用する、この3つの方法で広めていきます。

質問：児童館のお便りを配付とありましたが、その具体的な内容は何ですか。

回答：お祭りなどのイベントの告知や中学生ボランティアの募集などの内容を掲載したいと思います。

質問：教室で中高生ができることについての周知ポスターが掲示されているのを見たことがあり、そのポスターがあまり関心を引くようなものではなかったように感じたのですが、そのデザイン性などの課題は感じましたか。

回答：ポスターの多くが白黒で印刷されているものが掲示されているので、カラー刷りなどの工夫が必要だと思いました。



質問：意見ボックスの設置という提案があったのですが、どのようなことが意見として反映されるのか、どのような範囲まで意見が書けるのか具体的に教えてください。

回答：中学生がどのようなことをしたいのかという意見を集め、自分がしたいことなどをできる限り職員さんと中学生で実現していこうという考えです。

質問：全体的に児童館の話をしていたと思うのですが、放課後なので、図書館などでも中学生のニーズに応えられるのではないのでしょうか。

回答：最初に私たちが放課後の取組について考えたときに、一番多く児童館について上がったので、児童館をメインとして話し合うことにしました。

質問：課題・問題点として普段児童館に来ていない人の意見を取り入れていないとありましたが、意見ボックスを児童館に置いても、児童館に来ない人の意見を取り入れることはできないのではないのでしょうか。

回答：児童館を利用しない人から意見を募るために、クラスルームでアンケートを掲載したり、手紙を配ってアンケートを実施する予定です。

質問：アンケートは、具体的にどのような内容にするのですか。児童館を利用しない理由を明確にする必要があると言っていたと思うのですが、そもそも児童館の存在を知らない人はどのようなことを書けばいいのでしょうか。

回答：チェック方式にして、児童館に行ったことがあるか、児童館を知らない人には「なぜ知らないのか」という質問を載せたいと思っています。

政策提言発表



令和4年度練馬子ども議会 政策提言発表 次第

令和4年8月2日 13:30～
練馬区立生涯学習センターホール

1 挨拶

2 政策提言発表

(1) 開会

(2) 政策提言発表

提言1 テーマ 練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高めるには
グループ名 Let's Join Nerima green volunteers グループ

提言2 テーマ 中学生の防災への関心を高めるためには
グループ名 Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～ グループ

提言3 テーマ 持続可能な社会に向けた食育の推進について
グループ名 知りたい！食べたい！つながる食育 グループ

提言4 テーマ 中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには
グループ名 放課後 Happy time グループ

※グループごとに、政策提言発表、質疑応答を行います。

(3) 講評

(4) 閉会

練馬子ども議会・政策提言発表

令和4年8月2日(火) 13:30~15:30

青少年課長

ただいまの出席議員数は34名でございます。なお、上石神井中、林田妃葵議員より欠席の届けを受けております。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、練馬中学校2年、渡邊夏生です。よろしくお願いいたします。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、令和4年度、練馬子ども議会政策提言発表を議題とします。

意見交換会での審査の結果、今年度の政策提言は、「練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高めるためには」、「中学生の防災への関心を高めるためには」、「持続可能な社会に向けた食育の推進について」、「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには」の四つとなりましたので、報告を求めます。順次発言を許可します。

「Let's Join Nerima green volunteers」グループ、お願いします。



「練馬区のみどりのボランティアについて」

Let's Join Nerima green volunteers グループ



私たち、「Let's Join Nerima green volunteers」グループは、「練馬区のみどりのボランティアについて」というテーマに基づいて発言します。

今回、私たちは、若い世代の人のみどりのボランティアへの認知度や関心を高める必要があると感じました。教育委員会及びみどりのまちづくりセンターの方にインタビューを行った結果、練馬区のみどりのボランティアについての現状と課題が分かりました。

これはみどりのまちづくりセンターの写真です。練馬区の環境に関する資料が置いてありました。現在、みどりのボランティア活動は、落ち葉清掃や、地域住民による公園や憩いの森などの自主管理、駅前広場などにある花壇を手入れする区民協働花壇事業など、いろいろな活動が行われています。

しかし、若者のボランティアへの参加割合が少なく高齢者が多いこと、PRが行われているものの若者の認知度が低いこと、活動日が平日のため誰もが気軽に参することが難しいこと、みどりに関するボランティア活動が若者にとって身近に感じられないことが分かりました。

そこから、次に述べる三つの課題を見つけました。

一つ目は、学校の教育課程が決められているため、授業内でのみどりに関する活動や学習をする機会が少ないということなど、みどりのボランティアへの関心を高める学校での取組が少ないことです。

二つ目は、若い世代の人たちをどのようにしてボランティア活動に参加させるかです。

先ほど述べましたように、ボランティア活動に参加しているほとんどが高齢者の方です。

そのため、若い世代への活動の引継ぎができないなどといった問題が起こっています。

問題点・課題

- ・若い世代の人たちをどのように参加させるか
- ・生徒会活動などでのボランティアについての呼びかけが必要
- ・体力が落ちた人、SNSが苦手な人への対応が必要（高齢の方のこと）
- ・みどりに関する意識、認知度が低い

三つ目は、若者が関心を示すようなPR活動ができていないことです。以上の問題を解決するための提案に移らせていただきます。

一つ目の解決策として、みどりに関するチェックシートを配付し、みどりに関して考える機会をつくることを提案します。このチェックシートを通して、みどりに関する意識や認知度を高めることが期待できます。具体的な内容としては、練馬区の中学校に協力してもらい、「みどりを守り、育むための取組について」という内容のチェックシートを、毎年、中学生を対象に実施するといった内容です。

二つ目の解決策として、練馬区で行われている落ち葉清掃のボランティア活動で拾われた落ち葉をしおりにし、各学校で配付することを提案します。

なぜ、この提案がみどりのボランティアに関する意識や認知度の低さを改善させるものなのかというと、しおりを配付して朝読書などの時間に使用することで、ボランティア活動への関心を持ってもらうとともに、活動に対する親近感が持てると思ったからです。また、落ち葉清掃で拾われたものを実際に使ってみることでインパクトが増し、各家庭で話題となり、ボランティアについてもっと知りたくなるきっかけになると考えたからです。しおりの配付後は、学級代表委員や生徒会の人たちに依頼し、この提案の目的などを生徒に伝える必要もあると考えています。

三つ目の解決策として、ボランティア活動に参加するきっかけをつくり、みどりのよさを知ってもらうために、多くのみどりのボランティア活動に参加した小中学生に賞状を送ることを提案します。

賞状をもらうことが参加するきっかけとなり、みどりのボランティア活動への関心を高めていくことができると考えます。そして、ボランティア活動に再度参加したいと思えるような取組の実行を目指します。



四つ目の解決策として、チラシのデザインを若い人向けに作成することを提案します。

これまでのみどりのボランティア活動に関するチラシのデザインを若い人向けに作成す



ることで、若い人のみどりのボランティア活動への認知度や関心が高まると思います。具体的な内容としては、今流行の漫画家などにチラシのデザインを依頼し、興味を持ってもらえるようなチラシの作成をします。また、みどりのまちづくりセンターや学校の生徒会、学級代表委員と連携して、チラシの配付と併せてみどりのボランティア活動への参加を呼びかけるPR活動を行います。

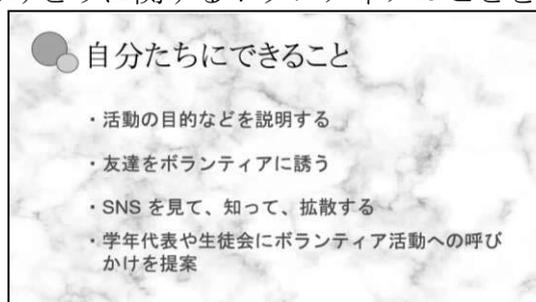
これらの身近な活動を通して、このボランティアに参加してみたいと思えるような取組を目指します。チラシのデザインを変更するという小さな行動でも、若い人たちに対する視覚的効果があるので、興味関心を増やすことが期待できると考えます。

以上が、課題を解決するための提案となります。

これまで述べてきた解決策に加え、私たちにできることが三つあります。

一つ目は学校でのボランティア活動の呼びかけや、友人をボランティアに誘うことです。このような取組を行うことで、練馬区が行っているみどりに関するボランティアのことを多くの人に知ってもらえます。

二つ目はSNSで情報の拡散を行うことです。ボランティアに参加しづらい人もSNSから活動を知って、気軽にボランティアに参加できると考えます。そうすることで若者のボランティア活動への参加率を上げることができます。



三つ目は、ボランティア活動団体の人々に、活動日の見直しをお願いすることです。活動の見直しには、団体と関係が深い、みどりのまちづくりセンターから私たちの意見をボランティア活動団体に伝えてもらう必要があります。

まとめとして、私たちが呼びかけやSNSでの拡散を行うことで、若い世代のボランティア参加率が上がると考えます。また、ボランティアに参加している高齢者の悩みである、世代交代にもつながるので、私たちからの呼びかけはとても大切です。ぜひ、皆さんも、お時間がありましたらボランティア活動に参加してみてください。

以上で、「Let's Join Nerima green volunteers」グループの発表を終わります。

議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について質問があればお願いします。

質問：チェックシートは誰がどういった内容のものを作成するのですか。

回答：チェックシートは、みどりのまちづくりセンターの方々と協力して作成をし、みどりのボランティア活動に関するものをYes、Noの回答形式で答えていただきます。

質問：SNSは誰がどのように拡散させていくのですか。

回答：私たちからもSNSを活用し発信していく予定ですが、SNS以外からも広げられると

考えております。

質問：若者向けのチラシとはどのようなものですか。

回答：今人気の漫画家さん等に依頼し、若者が興味を持てるようなチラシを作成したらと考えております。

質問：ボランティアの活動日はいつがいいとお考えでしょうか。

回答：学生や平日に働いている方が参加しやすいよう、休日がいいと考えております。

質問：ボランティアの活動日の見直しとありましたが、ボランティアの活動日の変更はすぐにできるものなのでしょうか。

回答：ボランティアの活動日の変更は未定ですが、みどりのまちづくりセンターのボランティア団体の方々等と日程の変更についての相談をする予定です。

質問：賞状は誰が作成し、どのようにボランティアに参加した人に渡すのでしょうか。

回答：区が作成した賞状を、学校の朝礼などを通じて渡すことを考えております。

議長

ありがとうございました。それでは次の発表に移ります。

「Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～」グループ、お願いします。

「中学生の防災への関心を高めるためには」 Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～ グループ



私たち、「Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～」グループは、「中学生の防災への関心を高めるためには」について発言します。

私たちが住む練馬区には防災学習センターがあり、防災知識を高める中学生向けの講座、中学生カリキュラムを行っています。しかし、その講座に中学生の受講者が少ないのが現状です。また、避難所となる区立の小・中学校に備蓄物資はありますが、練馬区の人口の1割ほどしか備蓄されていないため、災害時には十分とは言えません。今回、私たちは中学校の防災への関心を高めるために、防災学習センターへ行き、職員の方にインタビューを行い、防災の講話を受講しました。そこから、次に述べる二つの問題点を見つけました。

一つ目は、防災活動や防災訓練が大人を中心に行われているということです。例えば、防災訓練では訓練の予告があり、生徒が自分で考えて動けておらず、先生のための訓練になっています。小学生のうちはそのような訓練でもよいと思いますが、中学生は指示を出



されなくても自分で考えて動くということが重要ではないかと考えています。

二つ目は、中学生の防災への関心が低いということです。先ほど述べたように、防災の中学生向けの受講者はあまり多くありません。中学生が忙しいことも講座に参加できていない理由の一つではありますが、防災への関心の低さにより学べる環境がありながらも生かされていないのではないかと考えています。そこで、以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

一つ目の問題点である、防災が大人中心で行われていることに対しての解決策は、生徒が中心となって防災に取り組むということです。

大人が先導して行う方法では得ることができない判断力や行動力を養うことができると考えます。具体的な方法を次に挙げます。

1. 生徒が中心となって避難訓練を企画し行うことです。

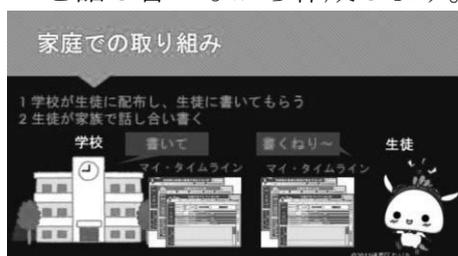
避難場所や避難経路などを多くの人考えることで、生徒自らの防災意識の向上につながると思います。また、生徒が主体的に行うことで先生の負担が減り、その分、安全管理に目が行き届くようになるなど、訓練の質が高まると思います。

2. 生徒会活動と関連づけて防災に取り組むことです。

そうすることで、自分一人ではなく全体で取り組んでいる感覚が強まり、自然と防災への関心が生まれると思います。さらに、この活動を定例化させることで防災の重要性を再確認することができると思います。

3. 家庭での防災の取組を行うことです。

例年、練馬区が行っているエコライフチェックデーのように、防災をテーマにしたものを行い、練馬区発行の「防災の手引」に入っているマイタイムラインを生徒が家族と話し合いながら作成します。



二つ目の問題点である防災への関心が低いことに対しての解決策は、学校の力を借りて、中学生が防災について考える機会を増やすことです。機会を増やすことで中学生が防災への興味、関心を持ちやすくなると思います。具体的な方法を次に挙げます。

1. 現在、練馬区の小中学校で行われている、いじめについて考える、ふれあい月間のように、防災について考えたり、防災に関するイベントを開催したりする月間、週間をつくることです。また、学校内での委員会が代表して防災に関するイベントに参加することで、より多くの生徒がイベントに参加してくれるような告知をしていくことが必要だと考えます。

2. 学校側の協力をもらい、参加する中学生を増やすことです。

現在、防災に関するチラシなどが学校で配布されることもありますが、それだけでは、なかなか防災について考え、イベントに参加してみようと思う人が少ないというのが現状です。そのため、学校側から広く宣伝をし、イベントに参加するように誘導することが、防災への興味、関心が湧きやすくなると思います。

3. 小中学生の防災教育にも力を入れることです。

防災教育は既存の授業に導入することで、授業を潰すことなく実現可能です。

例えば、小学3・4年生用の区が発行している「わたしたちの練馬区・東京都」という社会科の副読本に取り入れることや、中学理科の1年の地震や、2年の天気、中学地理の日本の災害での取り入れをすることで、授業内で防災学習が可能です。

以上、これらの解決策を区へ提案します。

最後に、私たちができることを発表します。

一つ目は、自らイベントに参加したり運営したりすることです。今回、地域調査を行った防災学習センターでは、防災に関することを日常的に行っています。こうした事業などに参加することで防災についての知識を得ることができ、また、それを他の人に伝えられると考えます。そして、自ら防災イベントを運営することで、中学生ならではの企画を考えることができ、中学生が防災イベントに行きやすくなると考えます。

私たちができること

- ①自らイベントに参加、運営する
- ②自分の家に備蓄をする
- ③自分の地域の被害予測を知る



©2011練馬区民局



二つ目は、自宅での備蓄など、日頃からの備えをしておくことです。備蓄食料品は、最低でも三日分、できれば一週間程度各家庭で確保するようにします。また、東京都の被害想定マップを確認することで、自分の地域の被害予測を知ることができ、自然災害による被害の軽減や防災対策に役立ちます。災害はいつ起こるか分かりません。そのため、緊急時のときに冷静でいられるよう、日頃の備えを完璧にすることが大切だと、私たちは考えます。

以上で、「Let's BOUSAI ～関心を高めてSmailを増やそう～」グループの発言を終わります。

議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：防災を強化する防災月間、週間というものがありますが、その中ではどのようなことをするのでしょうか。

回答：防災月間、週間をつくり、生徒中心の避難訓練や調べ学習など、防災に関する教育を強化することを考えております。これは、現在、練馬区が行っている、いじめを防止することについて考える期間を設ける、ふれあい月間を参考にしております。

質問：調べ学習については、どのようなもののでしょうか。

回答：興味を持ってもらうきっかけになりそうな地域の防災イベント、マイタイムラインなどを調べてもらうことを考えております。

質問：生徒主催の避難訓練は、どの程度の頻度で行うのですか。

回答：年間で行われている避難訓練のうち、1、2回を生徒中心のものにしようと考えております。

質問：生徒主催の避難訓練では、学級委員や生徒会が中心となるのでしょうか。また、運営はどこまで生徒が行うのでしょうか。

回答：生徒会が中心となって行うことを考えており、これから述べます二つのやり方を考えております。

一つ目は、生徒が先生を抜き打ちテストすることです。

普段、先生が中心となって行っている避難訓練では、事前に取り組むべき行動が考えられているため、スムーズに行動できます。しかし、災害は予期せず起こるため、とっさに行動できるように、生徒がどこで何が起きたのかを考えます。

二つ目は、避難行動を生徒だけで行うことです。

先生にシチュエーションを用意してもらい、避難の様子を講評してもらうことを予定しております。

質問：自ら防災イベントを運営するとは、どういうことでしょうか。

回答：区で行われている防災イベントに積極的に参加し、得たことを生徒会活動と関連づけ、ゲーム性のあるものやラリー形式のものなど、中学生が興味を持てるイベントを作り、運営することを考えております。

質問：防災学習センターで開催されるイベントとは、どのようなものでしょうか。

回答：防災学習センターでは、防災カレッジ中学生向け講座というものを実施しています。この講座では、地震体験をしたり、災害時にするべき行動を学べたりします。

議長

他に質問はありますか。

この際、以降のグループ発表に参加したいので、副議長の大野議員と交代いたします。

副議長

ここからは、副議長を務めます、練馬子ども議員、石神井西中学校2年、大野杏珠が議長の職務を行います。よろしく申し上げます。

それでは、次の発表に移ります。

「知りたい！食べたい！つながる食育」グループ、申し上げます。



「持続可能な社会に向けた食育の推進について」 知りたい！食べたい！つながる食育 グループ

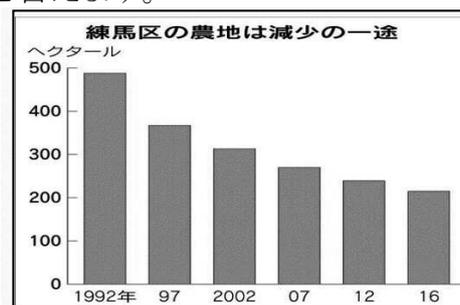


私たち、「知りたい！食べたい！つながる食育」グループの発言を始めます。

平成17年に食育基本法が施行されて以降、食育という考えが定着してきました。こうした取組は、私たち中学生が直接関わっている学校給食や朝ごはんコンクールなどの機会を通じて行われています。

一方で、学校給食における主食や副菜の残食率が高いという調査結果もあります。多くの学校給食が捨てられてしまうという現状がありました。日本の農地や農業人口が少なくなっている中、食料が捨てられてしまうのは大きな問題と言えます。

農林水産省の資料では、練馬区の農地の面積は、1992年には約500ヘクタールあるのに対して、2016年には、その半分の約250ヘクタールしかありません。また、農家の人口も、2000年は2,227人だったのが、2020年には1,050人と、減少の一途をたどっています。



私たちは、地産地消といった取組の中心に関わっている農家の方に、食育から見た学校給食と農業についてどう考えているかについて調査をし、そこから見つかった問題が二つあります。

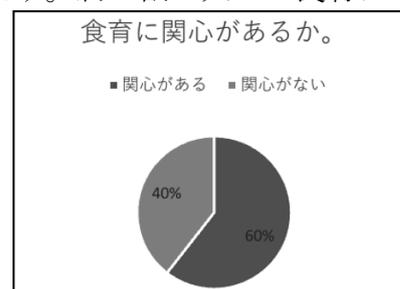
一つ目は、給食をおいしく感じられていない子どもたちがいるということです。

地域で取れた野菜を取り入れるなど、栄養士さんたちは子どものために献立を工夫していただいておりますが、それを知らない子どもが多く、新型コロナウイルス感染症拡大防止としての黙食の広まりもあり、給食のおいしさが薄れてしまっています。

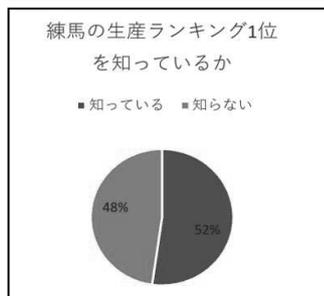
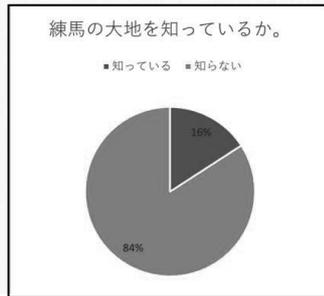
また、食を学ぶ機会が少なく、子どもたちの食の知識が少ないことも原因として挙げられます。私たちのグループでは、計6校の中学校、回答数は1,843人の方々に、食育に関するアンケートに回答してもらいました。

こちらのグラフを御覧ください。食育への関心度についてです。約6割の人が「食育に関心がある」と答えていますが、約4割の人は「関心がない」と答えています。今後、さらに関心を高めるために、関心のない約4割の人に焦点を当てて話し合いました。

そこで、このような状況になった原因として、子どもたちの食に関する知識が関係あるのではないかと考えました。



食に関する知識アンケートも実施しました。



「練馬の大地」という学校給食の残菜から成る肥料を知っているかアンケートを取ったところ、知っている人は全体の約15%、知らなかった人は約85%という結果が出ました。さらに、「練馬の野菜生産ランキング1位を知っているか」についてのアンケートでは、知っている人が全体の約半分と高い水準ですが、反対に約半分の方は1位を大根だと思っけてしまっています。練馬といえば大根というイメージがありますが、実は、キャベツが生産ランキング1位です。これらの結果は、全体的に見て知識が少ないと言えるのではないのでしょうか。

このように、食育に関する関心はあっても、食を学ぶ機会が少ないことで、子どもたちの食に関する知識は少なくなっています。

これらの要因から、食材を生産する方や献立を考える方、調理をされる方への感謝やありがたみが分からなくなっています。

また、農家の数の減少に伴って、生産者と学校給食をつなぐ取組が希薄になるのではないかと考えられます。農家が減ると、地産地消が困難になるだけでなく、子どもたちが農業を身近に感じる機会が減少します。日本の未来を担う子どもたちへの食育が不十分だと、将来的に食を伝えられる人がいなくなってしまう。

こうした状況においても、農家との接点を築く効果的な取組が、今、世界で目標とされている持続可能な社会の実現にもつながっていくのではないのでしょうか。

実際に、子どもたちは給食や食育を身近に感じられず、関心が薄くなってきています。

そこで、子どもたちの手を加え、自ら主体的に学べるようにすることが重要だと考えました。そうすることで、より能動的に給食に向き合えるようになると思います。

そのことを踏まえ、私たちは、次の政策を考えました。

一つ目の提言は、総合の時間に調べ学習を行うことです。

授業を受けるだけでなく、自分たちで調べることで、より知識が身につくようになります。例えば、給食の歴史や食糧危機について調べることで、食に対するありがたさを学ぶことができます。

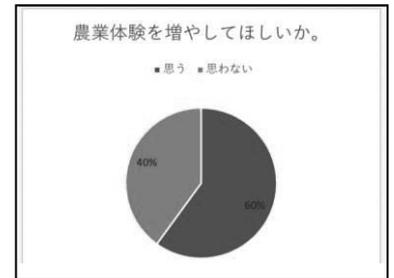
二つ目の提言は、一斉給食献立コンクールです。

一斉給食とは、練馬区産のキャベツや大根等の野菜を使った給食を区内の学校に出す取組です。しかし、これを知らない人が多いという現状があります。そこで、献立を募集し、一斉給食や大根以外にもたくさんの練馬区産野菜があることをPRする機会にもなると考えられます。自分たちで献立を考えることで、実践的に学び、興味を持つこともできます。



三つ目の提言は、農業体験を行うことです。農家の方によると、現代の子どもたちは作物が取れるまでの流れを把握できておらず、それは食育活動における問題だそうです。

その結果、野菜はスーパーで作られていると思い込んでいる子どもがいるともおっしゃっていました。この問題に対して、農業体験を増やしてほしいかどうかについてのアンケートを行いました。こちらの質問は任意によるものでしたので、計3校、回答数は1,192人の方々に回答してもらいました。約6割の人は農業体験を増やしてほしいと思っているという結果が出ました。また、農業体験により、食育への関心が深められると思います。具体的な方法としては、地域の農家の方に協力をしてもらい、農業体験や校内で農作物を育てることにより、収穫体験などを通し、農業の具体的な流れを知り、食への興味関心が深まり、食育が進むと考えます。また、農家の方の大変さを知ること、食べることへのありがたみを感じることができます。食への意識の変化を感じ、普段の給食をより一層おいしく楽しく、食べることについて有意義なものを感じられると考えています。その結果、練馬区全体で一貫した食育の推進がなされると考えます。



四つ目の提言は、児童・生徒と栄養士さんの交流を深める活動をすることです。

具体的には、給食の前後に栄養士さんに教室を回っていただき、声かけやおしゃべりを交わすことで、食育をより身近な存在にすることができ、関心のアップにつながります。

また、委員会の活動、例えば放送委員が放送で食育について伝えたり、児童・生徒が各自調べた知識を、給食委員、衛生委員がポスターなどでまとめて周知し、食育について伝えたりする活動を衛生委員さんの意見を求めたり協力していただくことで専門的知識を取り入れ、新たな視点で食育についてより深く追求する機会を設けることができると考えます。今、私たちの身近でできることは、主に二つあります。

一つ目は、普段から自分で食育のことについて考えたり調べたりして、知識をつけておくことです。そして、そこで身につけた知識を、家族や友達など、周りの人に伝えることで、食育の知識が広まると考えます。



二つ目は、農家の方の協力をいただき、農業体験に自ら参加することで、周りの人にも食育に関する興味や関心が高まってくると考えられます。さらに、その経験や活動をポスター制作やSNSの活動といった形でお知らせするなどの取組でさらに食育の輪が広がるものと考えます。

最後に、生徒会活動の一つとして、学校の敷地を借用し、野菜の栽培、収穫体験活動や、学校のホームページでの取組の紹介について、学校の先生と相談して取り組んでいきたいと思えます。

以上で、「知りたい！食べたい！つながる食育」グループの発言を終わります。

副議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：黙食によって学校給食をおいしくないと感じさせてしまうとなりましたが、黙食が学校給食をおいしくないと感じさせる原因となっているのでしょうか。

回答：食べることの楽しみの一つである友達とのコミュニケーションが、黙食により少なくなっていることが考えられるため、黙食が給食をおいしいと感じられなくなる原因と考えております。

質問：子どもの手を加える取組とは、どういった取組ですか。

回答：総合の時間で食に関する調べ学習を行ったり、授業外で子どもたちが献立を考える一斉給食献立コンクールを取組に入りたいと考えています。

質問：農業体験とは、既存の体験をそのまま生かしていくのですか。それとも新規に何か行うのですか。

回答：農業体験については、既存のものも含め、各学校と地域の農家の方と連携を強め、イベント等に参加してもらうことを考えております。

質問：ポスター制作をする目的と内容を教えてください。

回答：食育に関心を持ってもらい、食育に関する知識を増やしてもらうことを目的としています。ポスターの内容は、自分が体験して分かったこと、感じたこと、調べたことなどを載せる予定です。

質問：「知識として練馬の大地という肥料を知っている」の割合が15%、「練馬区の農産物生産量1位はキャベツであることを知っている」の割合が50%という二つのアンケート結果をどのように考えておりますでしょうか。

回答：練馬の大地という肥料と農産物生産量1位はキャベツについての割合をどのように考えているかということについては、練馬の大地についても、最も多い農産物についても、認知されている割合は低いと考えております。

質問：授業外で食に関することを自主的に学ぶことが少ないとありましたが、それについての原因はどのようなものが考えられますか。

回答：練馬区では、栄養教諭らを中心に、食育に関する授業を計画、実施しておりますが、学校によって取組方法が異なり、子どもたちの自主性などの意識づけにばらつきが生まれていることが要因だと考えています。

副議長

ありがとうございました。それでは、次の発表に移ります。

「放課後 Happy time」グループ、お願いします。

「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには」 放課後 Happy time グループ



私たち「放課後 Happy time」グループは、「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには」について発言します。

私たちの住んでいる練馬区には、放課後、中学生が利用できる場所が多くあります。その中の一つである児童館について、調べることにしました。

今回、私たちは、児童館の職員が利用者のニーズをどのようにキャッチしているのか、児童館の情報発信の実態はどうなっているのか、中学生の利用方法はどうかなどについて調査するため、中村児童館へ行きました。

児童館では、利用者のニーズを職員の方が、子どもたちや保護者との会話の中で把握することが多いそうです。情報の発信については、小学校には児童館便りを一人1枚配付し、中学校にはクラスに1枚、掲示用として配付していることが分かりました。

また、中学生は自分が利用者として楽しむだけではなく、職員の手伝いをする事ができる機会があるということを知りました。その現状から、私たちは次に述べる三つの課題点を見つけました。



一つ目は、利用者のニーズの把握についてです。

職員は、利用者との会話で情報を得ていることが多いのですが、それでは、児童館を利用し、その中でも職員と会話をした限られた人のニーズしか把握できないということです。

二つ目は、児童館からの情報発信についてです。

中学生になると、個人へのお便りの配付がなく、クラス掲示のみになり、児童館の情報を目にする機会が少なくなっているということです。

三つ目は、中学生が遊ぶために利用する以外に何が出来るか知られていないということです。

以上の課題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず、一つ目のニーズの把握については、意見ボックスを設置すること、学校でのアンケートを実施することを提案します。意見ボックスを設置するメリットとして、職員と直接話すことが苦手な人や遠慮してしまいがちの人でも、簡単に意見を伝えられるというメ

リットがあります。一方で、デメリットとしては、普段、児童館を利用しない人の意見を聞くことができないという点があります。より多くの人に児童館を楽しんでもらうためには、普段利用しない人が、なぜ児童館を利用しないのかを明確にする必要があります。

児童館を利用している人だけではなく、学校でアンケート用紙を配ることで、児童館を利用していない人の意見を取り入れることもできると考えます。

課題・問題点

① ニーズの把握

児童館を利用し、その中でも職員と会話をした限られた人のニーズしか把握できない。

② 情報発信

中学生になると、個人へのおたよりの配付がなくクラス掲示のみになり、児童館の情報を目にする機会が少なくなっている。

③ 利用方法

中学生が遊ぶために利用する以外に、何ができるか知られていない。

二つ目の情報発信の方法については、中学校でも小学校同様、一人1枚お便りを配付することを提案します。それに加え、現在、練馬区では、中学生全員にタブレットが既に配付されているので、児童館と学校が連携してクラスルームにも掲載することを提案します。これによって、児童館の情報が生徒一人一人の目に行き届き、利用者数増加

が期待できると考えます。今回、児童館職員の方との話を通じ、私たちが思っている以上に中学生のサポートを児童館が期待していることが分かりました。

しかし、中学生が遊んで楽しむ以外に何ができるのかが知られていないという現状があります。

そこで、児童館における中学生ボランティアの充実を提案します。

具体的な方法として、各イベントにおいてボランティアを中学生から募ったり、イベントの考案をするイベント会議を実施したりしてはどうか。いきなり大きなイベントの企画、サポートは大変なため、まずは対象を絞って中学生限定のイベントを企画し、実施することから始めてはどうかと考えています。

児童館職員の方に聞くと、小学生や乳幼児のイメージが強いですが、こうした活動を通じて中学生にとっても居場所であることを知るきっかけになると思います。

最後に、私たちができることは、私たちが友達を児童館に積極的に誘い、利用すること、また児童館の楽しさを周囲の人たちにも広めることです。

そして、意見ボックスに意見を入れたり、アンケートなどにも積極的に答えたりすることで、よりよい児童館の実現に貢献できると考えます。また、イベントの企画や運営をサポートすることで、自分たちが楽しむだけではない、新しい関わり方ができるのではないかと考えます。

このように、私たち中学生が児童館を通して利用者と企画者の両方の立場から関わることで、中学生の放課後の充実につながるのではないのでしょうか。

これで、「放課後 Happy time」グループの発言を終わります。

副議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。



質問：中学生だけのイベントとは何をし、どこで誰が企画するのですか。

回答：各児童館で中学生からリクエストされたイベントを職員と相談して決めます。

質問：中学生ができることの広め方は、タブレットを使う以外にどんな方法がありますか。

回答：クラスルーム以外に、ポスターと毎月の児童館便りに募集内容を載せ、一人一人に配ります。ポスターは白黒印刷が多いため、カラー印刷にすることや、字を大きくするなどして改善していきたいと考えております。

質問：児童館のお便りについて、具体的な内容はどのようなものでしょうか。

回答：毎月のお便りには児童館のイベントが載っています。イベントを企画した際は、その情報やボランティア募集も載せてもらうことを予定しています。

質問：意見ボックスで書ける意見の範囲は、どのようにする予定ですか。

回答：中学生がやりたいと思うことを自由に書いてもらいます。それが実現可能かは職員さんと相談していきます。

質問：「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするには」というテーマなので、児童館でなくてもいいのではないですか。また、放課後に利用できる施設は図書館などありますが、なぜ児童館を調べたのですか。

回答：図書館は既に多くの中学生が利用しています。その中で、中学生の新たな居場所の候補として児童館に焦点を当ててみたいという意見が多かったので、児童館をテーマとしました。

質問：アンケートの内容は具体的にはどのようなものを考えていますか。また、児童館をそもそも知らない人はどうする予定ですか。

回答：児童館を知っている人と知らない人、両者に対応したチェック項目をつくります。児童館を知らない人は、児童館を知るきっかけになればいいと思っています。

副議長

ありがとうございました。以上で、政策提言発表を終了いたします。

それでは、練馬子ども議会で発言のあった、「練馬区のみどりのボランティアへの関心と参加率を高めるには」、「中学生の防災への関心を高めるためには」、「持続可能な社会に向けた食育の推進について」、「中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには」、以上の四つの政策提言について、教育長から講評をお願いします。

教育長による講評

堀 教育長



皆さん、こんにちは。練馬区教育委員会教育長の堀和夫と申します。

本日お休みの方もおられますが、参加された35人の子ども議員の皆さん、7月2日から本日までの5日間の子どもの議会の活動、大変お疲れさまでした。

皆さんは、区立中学校33校、都立中学校1校、私立中学校1校の35校からお一人ずつ選出され集まっていただきました。ということは、皆さんは知らない人たちばかりで初対面の人たちが、この5日間でグループをつくり、課題を設定して地域調査をし、昨日、意見交換会をやり、本日の政策提言発表会に臨んだわけです。

ゼロから人間関係を作り、そして、いろんな議論をして、また他者の意見を聞き、今日の日に臨んでいます。

子ども議会は、皆さんがまだ生まれる前の平成16年から毎年行ってきました。

これまでずっと毎年、夏の行事としてやってきましたが、去年と一昨年は新型コロナウイルスまん延に伴い、中止とせざるを得なくなり、3年ぶりの開催となりました。

皆さんも、この2年間、新型コロナウイルスの感染拡大によって、学校生活や社会生活、家庭生活がいろいろと変わったことだと思います。今年度もこのような状況ですので、感染症拡大に最大の対策を講じながらの開催となりました。そういった意味では、通常の時期と違って、御苦勞も多かったと思います。そのような中で、初回の7月2日の学習会でのグループづくりから、テーマの選択、地域調査、政策提言の作成を経て、本日となりましたが、このようにゼロからスタートした人間関係でやっていくのは大変だったと思います。また、それに向けては、各地域調査、施設訪問、インタビュー、それから、アンケート調査もやっていただいたグループもあります。この政策の背景、必要性を踏まえた政策提言になっていたと感じました。昨日の意見交換会と本日の政策提言発表に、私も出席させていただきましたが、各グループともに明快に説明し、明確に答えておられたし、子ども議員の中から選出された議長、副議長の議事進行も非常に円滑で、大変よかったと思います。それでは、発表されたグループ順に講評をさせていただきます。

まず、初めに発表されました「Let's Join Nerima green volunteers」のグループの皆さんです。横文字から入ってきたというのは、ハイカラなやり方でしたね。ボランティアというのは、自発的に行うという意味があります。

ボランティアというのは自らが活動を始めるという意味があるわけです。このグループは、最初にまちづくりセンターでインタビューを行っています。地域住民による様々な落ち葉の清掃とかをしていますが、若手のボランティアが少ない、高齢者に依存している

体質がある、それから、若者の認知度が低い、活動日が平日のため子どもたちは参加がしにくい、みどりに関するボランティア活動が身近に感じられない、という4点が課題として挙げられて、それに対応する解決策が出てきました。

まず、学校のボランティア活動についてですが、みどりのボランティア活動に関心を高める学校の取組が少ないということでした。次に、ボランティアのほとんどの方が高齢者で、若手になかなか引継ぎがしにくいということから、若手が関心を示すようなPRができていないことが挙げられました。解決策の一つとして、チェックシートを作って毎年調査したらどうかということがありました。これはなかなかよい提案だと思いますが、チェックシートやアンケートをすると、集計という仕事に伴います。もちろん設問を作るところから始まります。そのような作業は誰がするのかというのを感じました。これからプランを考えるときには、誰がやるのか、誰にやってもらうのかということを考える必要があると思います。皆さんには、既に一人1台のタブレットパソコンが配備されています。そういった意味では、SNSとかICTを活用すると、項目を入力してもらえれば集計はあっという間にできてしまいます。そういうところの視点があれば、もっとよかったと思います。

次に、落ち葉をしおりにして使うということです。お金がかかりません。そういった意味では、これはよい提案だと思います。一方で、どのように押し花を作るのかなというところはありますが、無料の資源というものを使うという発想は非常に斬新でよかったと思います。

3点目ですが、ボランティア活動に参加した小中学生に賞状を送る。人間は褒められるとうれしいです。賞状をもらえれば、もっとやろうかな。もらえるのだったら私もやろうかなと思うので、この発想は、なかなかよい発想だと思います。

チラシのデザインを若者向けにする。プロの漫画家さんをお願いするとかありますが、これについても、何とか若者向けのスタイルにするように、区としてもやっていきたいなと思っています。

最後に、これは他のグループにも共通しますが、自分たちにできることを三つ最後に提言してくれました。自分たちにやれるところはやるということで、一つ目が学校のボランティア活動の呼びかけ、友達を誘う。それから、次には、SNSで拡散する。SNSで拡散させるというのは非常に有効な手段だと思います。

それから、三つ目。ボランティアの活動日の見直し。これは、昨日の意見交換会の中でも出ていましたけれども、活動日を全部変えてしまうというのは難しいと思います。高齢者の方にやっていただいている現状もあり、1年間の活動の中に何日か子どもたちが入りやすいような日程を設定してもらおうというのはよいと思います。

ただ、中学生の場合は、部活もある、それから塾とかの習い事をしている人もいます。活動の日程を設定するに当たっては、皆さんの意見も十分踏まえてやる必要があるかなと思います。いずれにしても、高齢者から世代交代をしなければいけない。課題の認識としては非常に正しいことだと思います。このようなことについて、本当にありがとうございます。よくできていたと思います。

次に、2番目の「Let's BOUSAI ～関心を高めてSmileを増やそう～」グループの皆さん。防災についてです。防災学習センターに行かれたということですが、中学生カリキュラムが防災カレッジにあるけれど、なかなか参加が少ないということでした。それから、学校は、全区立小中学校は避難拠点となっていて、区民、他の方々が避難をしてきたときのために、最低限の物資が保管されています。それが人口の1割ほどの分しかないということ、防災学習センターの職員の方に聞きました。そして、防災の講話も受講しました。この機会に、防災意識を高めるといふ点では、非常にこの活動そのものが皆さんのためになったものと思います。そこの中の提言として、活動が大人中心で行われていること、中学生は小学生と違って指示を出さなくても自分で考えて動けるといふこと。非常にありがたい、また頼もしいお答えです。それから、中学生の防災の意識が低いということでした。その問題点について、判断力が行動力を養うということが提言されています。

そこでですが、皆さんが学校でやっている訓練というのは、「普通の避難訓練」と書いてありますけれども、訓練には、火事、それから地震もあります。意外にないのが、台風とか風水害なのです。ここの中に、マイタイムラインという提案がされていますけれども、マイタイムラインというのは3年ぐらい前の台風15号、19号のときに出てきた概念で、台風というのは時間の予測が立つのですね。ここで発生して、ここに来て、いつ頃、東京にやってくると。だから、計画を立てやすいわけです。進行管理ができるのです。

ところが、地震とか、火事は、いつ来るか分からないということがあって、そういった意味では、なかなか計画を立てにくい。万が一のためには用意するけれども、明日起こるとか明後日起こるとかという話ではないので、防災については、そういう時間が分かるものと、いつ来るか分からないという時間が不定のものと、二つ対応を考える必要があるかと思えます。

避難訓練は、中学生の皆さんでしたら先生に指示を受けるまでもなくやれると思えます。地震、火災訓練は、ぜひ生徒が中心となってやっていただきたいと思えますし、先生の負担が減る。先生への気配りまでしていただいたのは本当にありがたいと思えます。

防災には自助、共助、公助という言葉が古来からあります。自分で助け、皆さん、周りの人を助け、そして行政が助ける。この自助、共助、公助という順番で防災は行っている。これが基本です。そこで、次に、中学校でいじめに対するふれあい月間のような調査を意識づけでやったらどうかと。区立中学校の場合は、年に3回やっています。これも一つの発想としてはあると思えます。ちなみに、区立中学校に通学されている皆さんは、6月に、ヤングケアラーの調査をさせていただきました。皆さんの考えとか、御自身でどのように考えているのか、悩んでいるのかというのを調査するのは、ある意味では必要なことだと思えます。それを通じて、防災意識を高めると思えます。それから、また小中学生についてのご提言もありました。

小学校3、4年生の「私たちの練馬区・東京都」という中に、震災対策について考えたかどうかということ。逆に、授業を潰すことなくとありますが、確かに授業の中で習得できれば、それに越したことはないです。中学校の理科の1年の地震、2年の天候、それ

から、地理の日本の災害、これも確かにその中で防災意識を育むことは非常に有効だと思います。また、このグループも子ども議員の皆さん自らができることということで、イベントに参加したり運営すること、それから、自分のうちで防災の備蓄をするということも、御自身でやるということがありました。

先ほど申しました自助、共助、公助。まず学校に配備している物資に頼るだけではなくて、自分のところでも用意をしておいて、そして、行政の助けを待つ。そういうことは必要かと思います。そういった意味では、この防災、先ほど申しましたが、火事、地震、台風と風水害、この三つに分けて、そして、さらに自分で助け、共に助け、行政が助ける、この概念をやっていくといいかなと思います。着眼点としては非常によかったなと思います。お疲れさまでした。

次に、三つ目のグループです。「知りたい！食べたい！つながる食育」グループ。

学校の中で一番楽しみになっている給食のことを取り上げてくれました。給食と食育というのは必ずしもイコールではありません。平成17年に食育基本法が施行されたということですが、食育というのは、食べておいしいとか、おなかいっぱいだとかというだけではなくて、食べ物とか食材料によって日本の文化、それから風俗、暮らし、習慣とかというものも一緒に学び、さらに、どのようにこの食材が取れるのか、収穫されるのか、分量としては日本の国民分として十分足りる分量なのかということも考えた、かなり範囲の広い概念ですね。そういった意味で、食育というのは必要なものだと思います。

そこで、最初に、農家の方のところへ行きました。そして、皆さんが把握したのが、給食をおいしく感じていない人がいるということ。それから、黙食になったら、さらに食事がつまらなくなっただのかということですが、教育委員会としては、おいしく安全な給食を皆さんに食べてもらうというのが仕事なのです。

ですから、給食をおいしくないとと言われると、どうしようかと思うのですが、まず、ここでは、おいしくない理由として、調理の仕方が駄目なのか、それとも皆さんの人気メニューの日はいいのだけれども、あまり人気のないメニューはだめであるとか。それから、食材料が駄目なのか。それとも黙食だとか、そういうその他の理由でおいしく感じないのか。いろいろあるかと思います。

皆さんは、作っている方々の苦勞、それから、これが例えば残菜として残ったことに対する、食品ロスとか、そういう背景が分からないから言っているのだろうなど、このグループはそのように分析をされたようです。

その中の一つのものとして、20年以上前から作っている練馬の大地ですけれども、アンケートでは15%しか知らない。これは、私も所管にお伝えしようと思います。それから生産量では練馬は大根だと、私も、区役所に入ったときにそう思っていました。でも、もう大分前からキャベツが一番なのです。練馬大根というのは非常に希少価値が高く、作ってはいますけれども、非常にレアなものです。非常に値段的にも高いです。

区立中学校の皆さんは、年に一度、12月に練馬大根引っこ抜き大会がありまして、そこで引っこ抜いたものを全小中学校にお配りして、大会の翌日の月曜日の献立の中には練馬

大根を使った料理が出ていると思います。太くないのです。細くて長いのです。八百屋さんで見るとは少ないと思いますけれども、非常に希少です。そういう中であって、区立小中学校では練馬スパゲッティとかジャージャー麺というのは結構人気があります。一方で、セレクト給食というやり方もやっています。セレクトというのは好きなものを選ぶのではなくて、調理の仕方を、焼く、蒸す、炊く、煮る、揚げるとかいうのを選べます。そういった意味では給食がおいしく感じないということは、その後ろについている皆さんの努力、苦労だけではなくて、いろいろな工夫をしながらやってもらっています。バックヤードを知れば、ある意味では食品ロスというのはどうなのだろうかと思う。感じ方が違ってくるのではないかと思います。

新型コロナウイルス感染対応で、みんなでおしゃべりしながらというわけにはいかないです。みんなと一緒に方向を向いているのを、向かい合ってもよいけれども、あまりおしゃべりしないでというやり方を改善した時期もありますが、また新型コロナウイルス感染症が都で3万人とかになってきてしまっているのです、これは、すぐに改善することはできないので、考え方を考えていただく必要があると思います。

そこでですが、先ほど言いましたが、農家の方々にいろいろインタビューされましたが、食品をロスするという事は、もったいないことだし、逆に世界中の食品の環境からすると、ロスのないようにしなければいけない。よくある話で、賞味期限と消費期限は違いますというのがありますが、学習する中で食材料のことだけではなくて、その食に関わるいろいろなものをお調べになった方がいいかなと思います。そこで提案があるのが、献立コンクールとか、取れるまでの流れを把握できていないとか、今日の話の中では、スーパーで野菜を作っているとか、昨日、八百屋で作っているという御意見もありました。

皆さんはそのようなことはないと思いますが、一方で、トウモロコシはどのようになっているのですか、書いてみてくださいというと、意外に難しいと思います。キュウリもナスもそうです。どのような形でなっているのか。地上にあるのか、地中に埋まっているのか。そのようなことを考えているのも、一つの考え、やり方だと思います。それを皆さんに教えていただいて、大きな知識として皆さんに伝達していく必要があるかと思っています。

このグループは、アンケートをやっていただきました。1,000人を超えるようなアンケートをしていただくというのは、ある意味では、この結果というのは非常に有益なものだと思います。それから、栄養士の方にクラスを回ってもらおうとか、放送で放送委員が食育について伝えていくとかとありますが、小学校は結構やっているのですよね。今日の献立はこういうものですよというようなことをやっているのですが、中学校は少し少ないのかなという感じがしますが、確かにやっている学校はあります。そういった意味では、いろいろなやり方を、たくさんの方で皆さんに知識として伝達をして、食育に対する理解を深めていただく必要があるかと思っています。

最後に、農業体験というのがあります。これは小学校に特に多いのですけれども、学校農園とか、それから近隣の農家の方に畑の一角を借りて栽培させてもらって収穫をするとかありますが、体験をするだけではなくて、様々なICTの機器を学ぶとか、読書をするとかによっても養うことができるかと思っています。

このグループは、昨日の意見交換会、1グループ25分間だったのですが、23分間、結構手厳しい質問もあって、皆さんが一丸となって答えていたのが印象的でした。

食べ物に対する一つの、こういう研究をしたことを通じて、これからの生活、家庭でも、御自身の生活にも役立てていただきたいなと思います。

次です。最後のグループ。「放課後 Happy time」グループです。

中学生ですけれども、児童館に着目をされました。中村児童館に行かれて、それで職員の方にインタビューをして、児童館便りは小学生には一人1枚配付されますが、中学校には1枚掲示用として配付されるだけだとか、それから、中学生は職員の手伝いをする機会があるというようなことも知ったようです。

先ほどの質問の中に図書館は使わないのですかということでしたが、私なりに思うのですけれども、児童館は17館あるのですね。区立中学校は33校あります。大体二つの中学校の校区に1個の児童館があると考えていただいてよろしいかと思います。図書館は12館プラス1分館。12館と一つの分館があるので、そういった意味では児童館の方が数が多い。それから、図書館は、お年寄りから若い方までたくさんいてお客さんが非常に多いです。児童館の方が、ある意味では自由度があるのかなという感じはします。着眼点として、児童館を選ばれたのは、一つの考えだと思います。

そこですが、アンケートを学校で取るとか意見ボックスを置くことでしたが、よい発想だなと思ったのは、利用しない人に、なぜ利用しないのですかというアンケートを取る。これは非常に有効だと思います。よく、ヘビーユーザーの意見ばかり聞くのではなくて、使わない人になぜ使わないのですかと聞く方が、有効なときがある。この発想の転換ですね。そういった意味では、良い発想だと思います。そして、ここにもありますが、中学校にも、小学校の子どもたちと同様に一人1枚お便りを配付することを提案するということですが、先ほどの他のグループでも申し上げましたが、中学生は部活動や塾等の習い事があったりして、結構忙しいのですね。ですから、もし、1枚配ったとしても、その1枚配った分の投資したエネルギーと児童館に中学生が来てくれるようになる、どちらなのかなという感じはします。それは検証する必要があると思います。

それから、もう一点ですが、児童館が少し中高生に時間を割くようになりました。なぜかといいますと、皆さんが小学生だったときに、ねりっこクラブという学校の中で放課後の居場所をつくりました。その分、児童館の利用者としての小学生が減りました。それによって中高生タイムという時間を増やしたりしています。このため、中学生が行きやすい状況になってきています。そこで、児童館の方では、中学校のサポートをしてほしい。中学生にもサポートの役割を担ってほしいのだと思います。

児童館というのは別に、「児童」という言葉が、子どもという意味がありますが、法律上は18歳以下のことを児童というのです。ですから、別に中学生が行っても高校生が児童館に行ってもいけないとか、ふさわしくない名前だというわけではありません。まず、そのようなイメージを払拭する必要があると思います。そういった意味で、中学生の居場所になるということでお使いいただければと思います。

最後に、利用者と企画者の両方の立場から、こうありたいという提案は非常によい提案だと思います。

各グループの発表に対する講評は以上です。

4グループとも熱心な調査と議論をして、すばらしい政策提言になったと関心いたしました。政策提言を今後、区の事業にできる限り反映するように、私としても取り組んでいきたいと思っています。

先ほども申しましたが、皆さんは、初めて会った方々と一緒に5回の学習会でここまでの政策提言をつくりあげたということは、大きな経験になったと思います。今回の子ども議員の活動を通して、議場や全員協議会室を子ども議員として使うことや初対面の人と一つの目標に向かって限られた時間の中で成果を出すこと、自分の考えを大勢の前で明確に発言すること、それから、いろいろな質問にグループ全員で答えることといった、なかなか経験しづらい、学校の中では経験できない体験をしたと思います。私は思いますがこれらの経験は皆さんの人生の中で必ず役に立つときが来ると思うのです。私はそう確信しています。

これからも自分の考えを実践して、学校生活や家庭生活をすばらしいものにしていただきたいと思っています。

本当に子ども議員の活動をお疲れさまでした。ありがとうございました。

以上です。

副議長

これもちまして、令和4年度練馬子ども議会を閉会します。

子ども議員の皆さん、また傍聴者の皆さん、長時間ご協力をありがとうございました。

令和4年度 練馬子ども議会の会議録作成にあたり、地方自治法第二百二十三条第2項の規定を準用し、署名する



※左から渡邊議員、小松議員、本間議員、柝井議員、瀬ノ口議員

練馬子ども議会議員

渡邊 夏生

練馬子ども議会議員

小松 風翔

練馬子ども議会議員

本間 詩乃

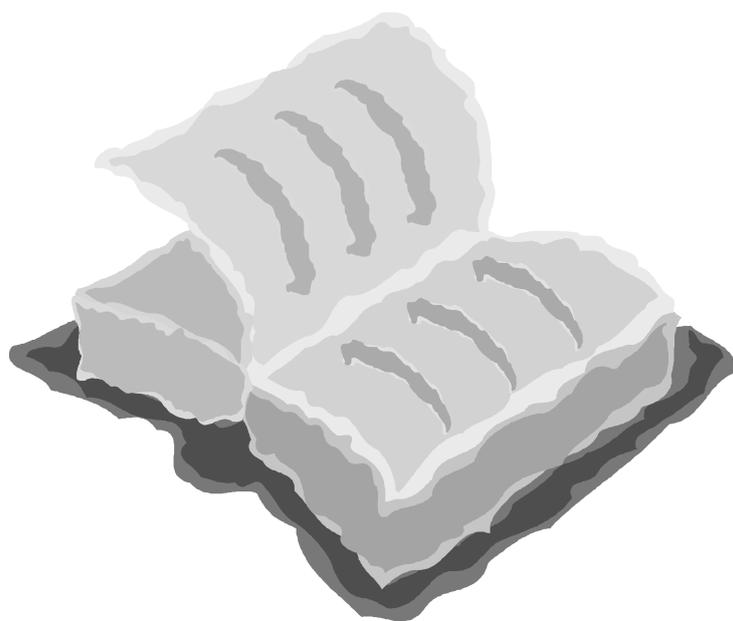
練馬子ども議会議員

柝井 若葉

練馬子ども議会議員

瀬ノ口 愛梨

資料



令和4年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

グループ	テーマ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
<p style="text-align: center;">L e t , s v o l u n t e e r s グループ</p>	<p style="text-align: center;">練馬区のみどりの 参加ボランティアへの関心と 率を高める</p>	<p>学校では、みどりのボランティアへの関心を高めるような取組が 少ないことから、みどりに関するチェックシートを配付し、みど りについて考える機会をつくってはどうか。（中学校に協力して もらい、「みどりを守り、育むための取組について」という内容 のチェックシートを、毎年、中学生を対象に実施するなど）</p> <p>若い世代の人たちがボランティア活動に興味を持ってもらうため に、落ち葉清掃等で拾われた落ち葉をしおりにし、各学校で配付 してはどうか。（しおりを配付して朝読書などの時間に使用して もらい、しおりの配付後に、この提案の目的などを生徒に伝え る）</p> <p>若い世代の人に関心を持ってもらえよう、周知チラシのデザインを に参加した小中学生に賞状を送ったり、周知チラシのデザインを 若い人向けにしてはどうか。</p>	<p>若い世代の人に、みどりのボランティア活動に関心を持っても らうことは大切です。小・中学生を対象とした、みどりの大切さ や役割、守り育むためにみんなができることなど、関心を高める 機会やツール、方法について検討していきます。</p> <p>みどりのボランティア活動に興味を持ってもらう取組を進め ていく必要があります。方法については、いただいた提案も含め て、様々な可能性を検討していきます。</p> <p>周知チラシ等の作成については、若い世代の人も興味を惹くよ うなデザインを検討していきます。 また、関心を持ってもらえるように、ボランティア活動の運用 方法等を工夫し、みどりを育むムーブメントの輪を広げていきま す。</p>

令和4年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

グループ	テーマ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
<p>） 関心を高めて Let's BOUSAI を増やそう！ グループ</p>	<p>中学生の防災への関心を高めるためには</p>	<p>防災活動や防災訓練が大人中心で実施されているため、生徒が中心となつて防災に取り組めるよう、自ら実施する避難訓練の企画等を実施してはどうか。（生徒会や委員会活動と関連づけた取り組みなど）</p>	<p>区では、災害時の避難所となる区立小中学校において、地域の方を中心に避難拠点運営連絡会を組織しており、避難所運営について会議や訓練を行っています。</p> <p>今後は、生徒会や委員会の方に会議や訓練に参加してもらい、実際に訓練の企画などを一緒に行うことで、自ら訓練が企画できるように働きかけていきます。</p>
<p>中学生の防災への関心を高めるため、練馬区の小中学校で行われているふれあい月間のように、防災についての月間を設け、学習、防災に関するイベントを実施してはどうか。</p>	<p>防災月間については、既に9月と定められていることから、この期間を利用して中学生向けのイベントが実施できるよう検討していきます。</p> <p>なお、防災学習センターでは、中学生向け講座を実施しているほか、防災学習や防災体験の受入れ、出前防災授業や訓練などを実施しています。ぜひ、多くの中学生の皆さんにご利用いただければ幸いです。</p>		

令和4年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

グループ		子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
	テーマ	<p>①総合の時間などで食について調べ学習を行ってはどうか。（給食の歴史や食糧危機について調べて、食に対するあるあるを学ぶ）</p>	<p>学校では総合的な学習の時間を含めて、様々な授業の中で食育に関する取り組みや学校栄養士がメンバーになっている各学校の食育推進チームや「小中学校における食育推進委員会」の中で、食育をさらに身近なものと感じてもらえるような方法を考えたいと思います。</p>
	持続可能な社会に向けた食育の推進について	<p>②一斉給食献立コンクールを実施してはどうか。（練馬区産の野菜等のPRする機会にもなり、自分たちで献立を考えることで、実践的に学び、興味を持つことができる）</p>	<p>現在教育委員会事務局では、区ホームページにて地場産物を活用した献立等を公開するなど、練馬区産の野菜等のPRに努めています。今後は学校の教育研究会が実施しているコンクール等において、練馬区産の食材を使った献立を更に推奨するなど、地場産物の普及方法について検討していきます。</p>
		<p>③農業体験を行ってはどうか。（食育への関心を深めることを目的とする）</p>	<p>小学校では、今年度から全校で開始しています。中学校でも、農業学習を取り入れている学校もあるので、今後、地域の特徴を生かした教育活動の一つとして、充実を図っていきます。</p>
		<p>④児童・生徒と栄養士さんの交流を深める活動を行ってはどうか。（放送委員が給食時の放送で食育について伝えたり、児童・生徒が各自調べたり、給食委員、衛生委員がポスターなどでまとめて周知したり、食育について伝えていただくことで専門的知識を取りさんの意見を求めたり協力していただくことで専門的知識を取り入れ、新たな視点で食育についてより深く追求する機会を設けることができる）</p>	<p>すでに生徒会活動として、給食時の放送時の献立の紹介や、ポスター作製に取り組んでいる学校もあります。今後、好事例を学校同士が共有できるように機会を検討していきます。</p>

令和4年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

グループ	テーマ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
放 課 後 H a p p y t i m e グ ル ー プ	中学生のニーズに応え、楽しめる放課後にするためには	<p>利用者のニーズの把握を、意見ボックスの設置や学校でのアンケートで行ってはどうか。（児童館を利用しないのかを明確にする必要がありません。児童館を利用している人だけではなく、学校でアンケート用紙を配ることでもできると考えます）</p> <p>児童館周知に関するチラシを中学校でも小学校同様一人1枚お便りを配付してはどうか。あわせてタブレットを活用した周知を行ってはどうか。</p>	<p>ニーズの把握は、児童館の利用者向けのアンケート（満足度調査）を毎年実施しており、その中でも行っています。意見ボックスの全館設置や、児童館を利用していない人へのアンケートは、いただいたご意見を踏まえ、今後どのような形で実現が可能かを検討をしていきます。</p> <p>中高生向けお便りやイベントのお知らせについて、現在既に、複数の中学校で全校生徒配布を行っております。また、タブレットを活用した周知については、各中学校に対応可能かアンケートをしていきます。その結果、クラスルームへの配信が決定した中学校もあります。今後、ご意見を踏まえ、練馬区立全中学校への中高生便り等の配布や配信を進めていく予定です。</p> <p>現在既に、各児童館においてボランティアの受入れを随時行っております。また、各イベントの際にも、こどもスタッフやボランティアの募集をしております。今後、中学生ボランティアの充実を進めていく予定です。ぜひお近くの児童館へお越しください。</p>

子ども議員へのアンケート集計結果

配付34 回収34

※各欄の%は回答数に対する割合とする

【子ども議会に参加した動機について】

(問1) 子ども議員になった理由を次のうちから一つだけ選んでください。

先生にすすめられて(学校の推薦)	26	76%
面白そうだったから	5	15%
練馬区に興味・関心があったから	1	3%
以前、参加したがまたやってみたいと思ったから	0	0%
自分の意見を発言したいと思ったから	1	3%
その他	1	3%
計	34	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・生徒会内での立候補

【オリエンテーションについて】第1回学習会(7月2日)

(問2-1) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	15	47%
良かった	16	50%
どちらでもない	1	3%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	32	100%

(問2-2) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	14	17%
良い経験となった	20	24%
他校の生徒と交流できた	25	30%
区のことをわかった	15	18%
わかりやすかった	8	10%
その他	0	0%
計	82	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・担当の職員の方がアドバイスしてくれたので、とても良い学習ができた。

(問2-3) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

部活などとの調整が大変だった	12	44%
他校の生徒との交流がなかった	0	0%
全体的にわからなかった	0	0%
区政・区議会制度のことがよくわからなかった	3	11%
選挙制度のことがよくわからなかった	4	15%
政策提言のことがよくわからなかった	2	7%
時間が足りなかった	5	19%
その他	1	4%
計	27	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・時間が長かった。

・時間が長かったので、その時間も話し合いをしたかった。

【地域調査について】第2回学習会(7月22日)

(問3-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	22	71%
良かった	7	23%
どちらでもない	2	6%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	31	100%

(問3-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	18	29%
良い経験となった	22	35%
政策提言発表の参考になった	22	35%
その他	0	0%
計	62	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・自分たちの足で地域に行き、インタビューができたのがよかった。

(問3-3)良くなかった点は何ですか(複数回答あり)

調査の時間が少なかった	13	72%
政策提言発表の参考にならなかった	0	0%
別の場所を調査したかった	3	17%
その他	2	11%
計	18	100%

〔「その他」の自由記入欄〕なし

・もう少し時間かけて実施したかった。

【政策提言作成(グループ討議)について】第3回学習会(7月25日)

(問4-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	21	62%
良かった	13	38%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	34	100%

(問4-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できた	23	20%
他の人の意見を聞いた	23	18%
みんなで協力できた	25	20%
十分に検討できた	20	14%
グループでうまく意見をまとめることができた	23	14%
区の現状を知ることができた	13	11%
その他	1	2%
計	125	100%

〔「その他」の自由記入欄〕なし

・PTの方がみんなの宿題をまとめてくれたので、話し合いがスムーズにできた。

(問4-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できなかった	1	8%
他の人の意見を聴けなかった	1	8%
みんなで協力できなかった	0	0%
話し合いの時間が足りなかった	8	62%
意見がうまくまとまらなかった	2	15%
区のことを知ることができなかった	0	0%
その他	1	8%
計	13	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・別の話で盛り上がってしまった。

(問4-4)その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

・自分の意見が発言しにくかった。もっと中学生主体で実施したかった。

【子ども議会開会宣言、意見交換会、第四回学習会】(8月1日)

(問5-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	26	76%
良かった	7	21%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	1	3%
良くなかった	0	0%
計	34	100%

(問5-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができた	27	24%
区の現状、考えが理解できた	19	17%
良い経験となった	29	26%
他のグループの考えを知ることができた	18	16%
意見交換の結果を、提言に反映できた	20	18%
その他	0	0%
計	113	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・活発な意見交換ができてよかった。

(問5-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができなかった	2	18%
区の現状、考えが理解できなかった	0	0%
他のグループの考えを知ることができなかった	4	36%
意見交換の結果を、提言に反映できなかった	0	0%
その他	5	45%
計	11	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・意見交換会の時間が足りなかった。

・少し相手グループを敵視してしまった。

【政策提言発表について】(8月2日)

(問6-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	28	82%
良かった	6	18%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	34	100%

(問6-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見がうまく発表できた	26	23%
区長から講評をもらった	24	21%
良い経験となった	29	25%
実際の議場でできた	17	15%
議員の役割を理解できた	19	17%
その他	0	0%
計	115	100%

【「その他」の自由記入欄】

- ・みんなでまとめた提言をしっかりと発表することができた。

(問6-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

形式的だった	7	54%
うまく発表できなかった	1	8%
時間がなかった	1	8%
区の現状、考えが聞けなかった	0	0%
その他	4	31%
計	13	100%

【「その他」の自由記入欄】

- ・リハーサルをもう少しきちんとして行ったほうがよかった。

【練馬子ども議会を振り返って】

(問7)子ども議会の期間(5日間)について、どのように感じましたか？

長い	1	3%
少し長い	1	3%
丁度良い	20	59%
少し短い	10	29%
短い	2	6%
計	34	100%

「長い」「少し長い」を選んだ理由

- ・夏期講習と重なってしまったため。

「丁度良い」を選んだ理由

- ・うまくまとめることができたから。
- ・塾との両立を考えるとちょうどよかった。
- ・部活との両立を考えるとちょうどよかった。
- ・とても充実した5日間でした。
- ・絶妙な期間設定でした。

「少し短い」「短い」を選んだ理由

- ・現地調査をもう少し時間をかけて行いたかった。
- ・他校の方ともっと交流したかった。
- ・スライドのまとめや原稿の確認をもっとしっかり行いたかった。
- ・調べる時間をもっと充実させたかった。
- ・グループのみんなと仲良くなり始めたころに終わってしまった。
- ・もっと時間があれば考えをより深くできたから。

(問8)全体を通して練馬子ども議会は皆さんの政策提言を十分に表明する場となりましたか？

そう思う	28	82%
まあそう思う	4	12%
あまりそう思わない	1	3%
そう思わない	0	0%
わからない	1	3%
計	34	100%

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・全員が自分の意見を発言し、みんなで考え、政策提言へ持っていくことができたから。
- ・アンケートやインタビューを行い、他の人たちの考えや現状を理解した上で言葉にできたから。
- ・練馬区について理解することができたから。
- ・生涯学習センターホールで発表できたから。
- ・自らテーマに関することを考え、行動に移す機会が充実していたから。
- ・グループで協力し合うことで自信が持てる政策提言をすることができたから。
- ・発表までの期間が十分にあったから。
- ・納得のいく政策提言ができたから。
- ・他グループの意見を聞き、違う考え方ができたから。
- ・スライドがあることでより分かりやすく伝えられたから。

「あまりそう思わない」を選んだ理由

- ・子ども議員が何か発言しても、それには限りがあると感じたから。

(問9-1) 今後子ども議員の経験を生かせる(または、生かしたい)と思いますか。

そう思う	29	85%
まあそう思う	4	12%
あまりそう思わない	0	0%
そう思わない	0	0%
わからない	1	3%
計	34	100%

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・自分の意見を発言すること、他人の意見を聞くこと。
- ・生徒会活動の中で活かせると思った。
- ・人前で自分の意見を伝えることができたこと。
- ・みんなで発表することでリラックスできた。チームで協力することを学んだと思う。
- ・他の人とひとつのものを作ること、まとめること、分かりやすく伝えることを生かしたいと思う。
- ・地域のことを自分のこととして調べていきたい。
- ・コミュニケーション能力が大きく成長したと思う。

(問10) 子ども議会についての自由意見

- ・楽しかった、面白かった。
- ・同年代の生徒達との交流を通して、自分の学校で参考になる案をたくさん知ることができた。とても良い経験ができたと思う。
- ・とても良いと思うので、これからも続けてほしい。
- ・たくさんのことを経験でき、良かったと思う。またやってみたい。
- ・見ず知らずの人と話をするのが苦手だったが、学習会をとおしてグループメンバーとコミュニケーションを取ることで、段々慣れていき、会話も弾むようになった。充実した話し合い、発表ができて嬉しかった。子ども議会に参加できて本当に良かったと思う。
- ・今後もこのような機会を作り、子供達の意見に耳を傾けてもらえるようにしてほしい。また機会があれば参加したい。
- ・自分にとってとても良い経験になった。これからもこの活動を続けてほしい。
- ・他校の生徒と意見を交換し合うことができ、とても良い経験になった。
- ・はじめは緊張したが、楽しく活動できた。
- ・楽しかったので、またやりたい。もっと他の人にも知ってほしい。
- ・とても良い会だった。
- ・他校の生徒と交流し、話し合いをすることで、自信がついた。とても貴重な時間だった。
- ・積極的に活動でき、他校の生徒とも交流できた。良い経験になったと思う。
- ・とても楽しく活動できた。
- ・本当に良い経験ができた。感謝したい。
- ・各校の代表が集まり区に意見を表明できて、とても良いと思った。
- ・楽しかった。他校の生徒と交流したのは初めてだったので、嬉しかった。
- ・相手の意見をしっかりと理解し、聞くことができたと思う。同じグループになった他校の生徒達とはお互いの学校のことなどを知ることができて、とても楽しかった。

練馬子ども議会プロジェクトチーム（PT）について

1 設置目的

練馬子ども議会学習会で政策提言発表内容等について子ども議員が上手く議論できるよう、青少年課職員とともに進行管理や助言をするために、政策提言発表テーマに関する所管部から7名の職員を選出し、PTを設置した。

2 プロジェクトチームの担当内容

- (1) 学習会のグループ学習の際、各グループに入り、青少年課職員とともにタイムスケジュールに沿った学習会の進行管理をする。
- (2) グループの扱うテーマに関する専門的な知識についての質問に対する回答や、情報の調べ方についての助言をする。
- (3) 意見が上手くまとまらず進行が滞った時は、腹案を提示するなどしてグループの意見をまとめる。
- (4) 子ども議員の提言内容がグループの扱うテーマから外れたものである場合には、グループの扱うテーマとなるよう示唆する。

3 プロジェクトチームメンバー

<区政全般に関する分野>

環境部	みどり推進課	管理係	係長	星	野	健	一
環境部	みどり推進課	管理係		野	末	侑	甫
危機管理室	危機管理課	庶務係	係長	妻	木	里	恵

<教育・こども分野>

教育振興部	保健給食課	学校給食係		的	場	大	将
教育振興部	保健給食課	学校給食係		海	田	夏	希
こども家庭部	子育て支援課	放課後対策第二係	主査	日	原	理	恵
こども家庭部	子育て支援課	放課後対策第一係		渡	邊	千	恵子

練馬子ども議会報告書

令和4年(2022年)12月 発行

編集発行 練馬区教育委員会事務局こども家庭部青少年課
〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1
TEL 03-5984-1292 (直通)
Mail : SEISHONEN03@city.nerima.tokyo.jp
ホームページ : <http://www.city.nerima.tokyo.jp>
